

報告事項セ

平成30年度発達障がいと診断された幼児児童生徒の在籍者数調査の結果
について

平成30年度発達障がいと診断された幼児児童生徒の在籍者数調査の結果につ
いて、別紙のとおり報告します。

平成30年10月31日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

県内の発達障がいと診断された幼児・児童・生徒数の推移について

特別支援教育課

<調査について>

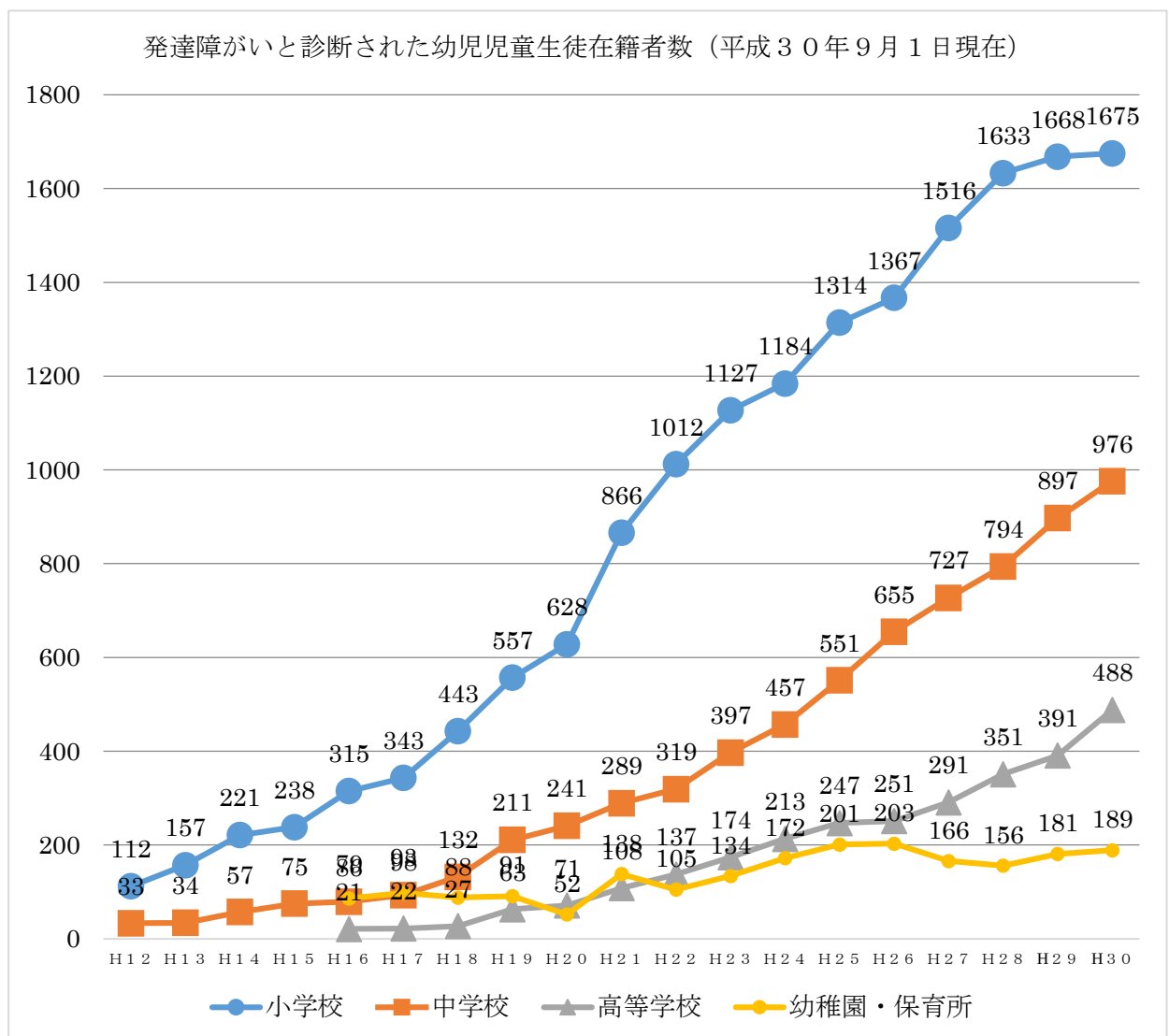
「発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍者数調査」（平成30年9月1日現在）

・調査日 平成30年9月7日から9月25日

・調査内容

県内の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校（専修学校を含む）が把握している発達障がいと診断された幼児・児童・生徒在籍者数。

※幼稚園・保育所、高等学校は、平成16年度より調査を実施



<推移について>

・小学校及び中学校については、通常学級に在籍する児童生徒の割合が減少し、特別支援学級に在籍する児童生徒の割合が増加している。

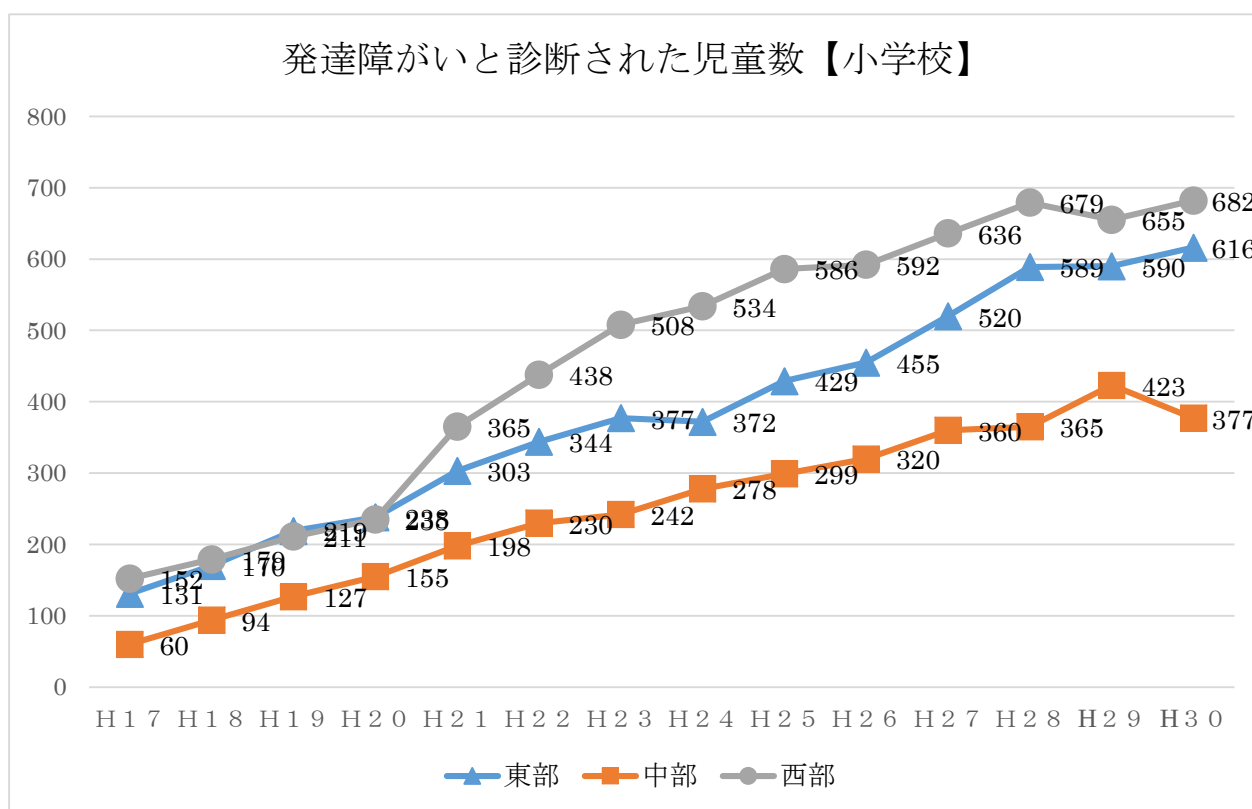
・高等学校の診断を受けた生徒の増加については、高等学校における特別支援教育に対する取り組みが浸透したことにより、診断をオープンにする本人及び保護者が増えたことによると推測される。

<全児童生徒数に対する割合（平成30年9月1日現在）>

	在籍者数(人)	全児童生徒数(人)	割合(%)
全体	59,947	3,139	5.2%
小学校	29,190	1,675	5.7%
中学校	15,269	976	6.4%
高等学校	15,488	488	3.1%

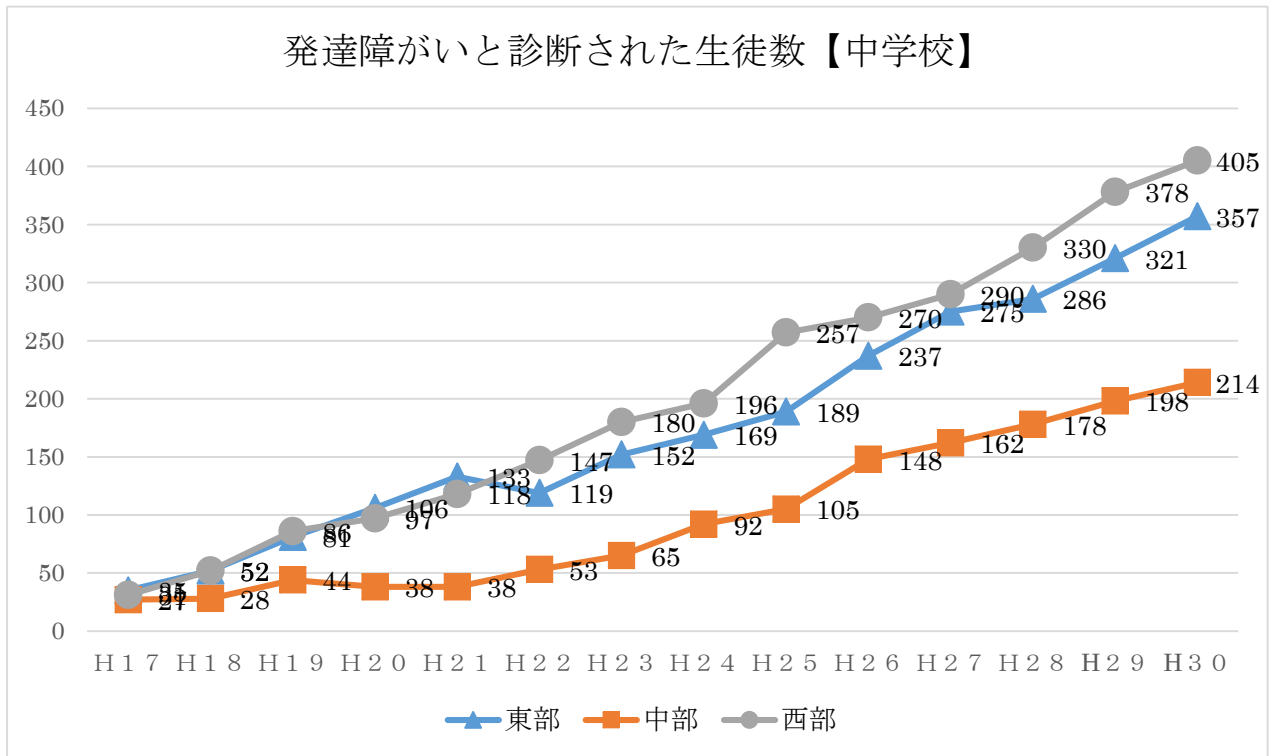
【参考1】圏域・校種別の発達障がいと診断された児童生徒数の推移

【小学校】各圏域全児童数に対する割合



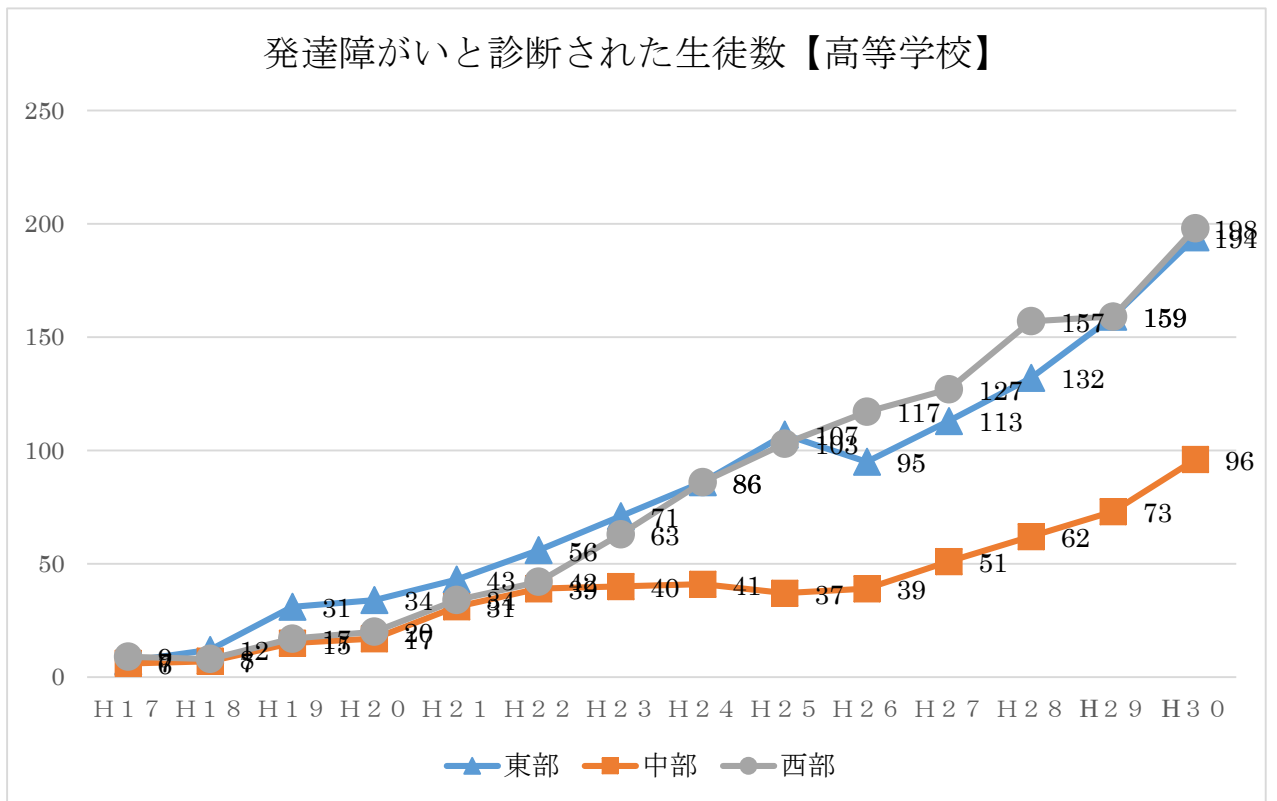
東部	中部	西部
5.2%	7.1%	5.7%

【中学校】 各圏域全生徒数に対する割合



東部	中部	西部
5.7%	7.9%	6.4%

【高等学校】 各圏域全生徒数に対する割合



東部	中部	西部
3.0%	3.8%	3.1%

【参考 2】 発達障がいの診断を受けている児童生徒の教育の場について

<小学校>

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
全体	1,367	1,516	1,633	1,668	1,675
通常の学級に在籍	918 (67.2%)	992 (65.4%)	1,057 (64.7%)	996 (59.7%)	985 (58.8%)
上記のうち通級による指導を受けている児童 ※母数は通常の学級に在籍する児童数	265 (28.9%)	265 (26.7%)	281 (26.6%)	274 (27.5 %)	260 (26.4 %)
特別支援学級在籍	449	524	576	672	690

<中学校>

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
全体	655	727	794	897	976
通常の学級に在籍	453 (69.2%)	505 (69.5%)	527 (66.4%)	600 (66.9%)	608 (62.3%)
上記のうち通級による指導を受けている生徒 ※母数は通常の学級に在籍する生徒数	40 (8.8%)	51 (10.1%)	77 (14.6%)	89 (14.8%)	102 (16.8%)
特別支援学級在籍	202	222	267	297	368